

当社代表取締役の久保京子が、消費生活アドバイザーの立場から輸入商品の品質確認についてアドバイスさせていただきました。

NEWS 「どうも」が知りたい □□ 26

化粧品販売会社ラバンナ(現イエス・オーケー、本社東京)は今年8月19日、「ステロイド不使用」とうたいながら、高濃度のステロイド剤が配合された化粧品クリームを輸入・販売したとして、薬事法違反の疑いで同社の元社長らが逮捕された。この件だけではなく、ステロイド剤配合の化粧品を販売したとして、薬事法違反に問われるケースが相次いでいる。輸入化粧品の中には、販売会社が知らないうちに、ステロイド剤が混入されていたというケースもあるという。事業者が薬事法違反事件に巻き込まれないための方策などを探った。

ステロイド剤配合化粧品を輸入しないためには？

そもそもステロイドって何？
ステロイドはある種の構造を持つ有機物質の総称で、性ホルモンや胆汁酸などもステロイドの一種なんだ。
ステロイドのなかでも、アトピーや湿疹の治療などに医薬品として使われる人工合成品を「ス

テロイド剤」と呼んでいい。
逮捕者が輸入していた化粧品の中に、この「ステロイド剤」が配合されていたから問題になっているんだ。
どうしてそれが問題になるの？
日本の薬事法では化粧品にステロイド剤を配

象と同じ状態になった」といった被害情報がネット上や、消費生活センターにたくさん報告されていたみたいだよ。
輸入会社は、問題の化粧品に、ステロイド剤が配合されていることを知らないで販売していたのかな？
元社長は「配合さ

合することは原則禁止とされている。「ステロイド剤」の効果は強力だけれど、副作用も強いからね。
今回の事件で配合されていたのは、ステロイド剤のなかでも、最も効果が強いといわれている「プロピオン酸クロロベタゾール(副腎皮質ホルモン)」。
「あまりに効きすぎるから怖くなって使用をやめたら、ステロイドのリバウンド(急に使用を断つと症状が悪化する現

れていたことは知らなかった」と言い張っているみたいだけれど、あやしむもんだね。報道によると、本当は韓国製なのに米国製と偽っていたようだしね。
今回は悪質な事例なんだろうけれど、なかにはステロイド剤の配合が隠されたまま輸入されて、日本の販売会社がその事実を知らない間に販売してしまつというケースもあるみたいなんだ。
えっ、知らないうち

輸入・販売各社も独自にチェックを

「情報を求めたときに提出してこない事業者とは、取り引きをしないほうが賢明」とも話していた。
輸入品だからといって「知らなかった」で済まされる問題ではないから、とくに海外との取引引きでは、信頼できる業者と付き合うようにすることも大切だね。

なぜかといつと、まだこれらの機能で検出できない。
「シロ」だったからといって、万全とはいえないからなんだ。
ステロイド剤の分析サービスを提供している「社によると」当社の分析で見られるのは、3種のステロイドに限られている。この3種が発見されなかったと報告をしたところ、あたかもすべてのステロイド剤が配合されているかのような広告表現をする販売会社があ

ないか疑うことも必要だろうね。
成分分析会社のなかには「ステロイド剤分析機能」を開発しているところもあるから、そういうサービスを活用するのも手かもしれないね。
そのサービスを使えば、ステロイド剤は「確実にステロイド剤は発見できるの？」
「確実とは言い切れない。なぜかといつと、まだこれらの機能で検出できない。」
「情報」を求めたときに提出してこない事業者とは、取り引きをしないほうが賢明」とも話していた。
輸入品だからといって「知らなかった」で済まされる問題ではないから、とくに海外との取引引きでは、信頼できる業者と付き合うようにすることも大切だね。

なるほど、「ステロイド剤は入っていない」と完璧に証明することは難しいんだね。じゃあ、いったいどうすればいいのかな。
消費生活アドバイザーの久保京子さんは「輸入業者が提出してきたデータやエビデンスを信用するだけでなく、逐一自分たちで調べる必要がある」と、販売会社自ら